

食と心の教育の関連

～（第5報）高校生の「人間教育」および「孤食」と性格との関連～

岩 下 美代子*

The Correlation between Eating Habits and Psychological Education.
～The Correlation between Moral Education, Eating Alone and Personality
among High School Students (Report5)～

Miyoko Iwashita*

「食と心の教育の関連」を探究していくにあたり、平成12年11月、鹿児島市にあり、進学率の高い2校と就職率の高い3校、合計5校の高校2年生1,320名を対象に多方面からのアンケート調査を実施し継続研究を行っている。

本研究は第5報として、その続報として高校生の「人間教育受容意識」および「孤食に対する抵抗意識の有無」と性格との関連を検討したので報告する。今後続けて社会人の分析および世代別の比較検討などを深め、心の教育と望ましい食生活の指導に役立てたい。

Key words: [アンケート調査] [高校生] [人間教育] [孤食] [性格]

(Received October 14, 2003)

I. はじめに

本研究は、「食と心の教育の研究」～健康におよぼす食物栄養学的・心理学的・哲学的影響～と称して、平成11年～14年の4年間「日本学術振興会科学研究費補助金」のもとに行われた研究の一部である。

少子化および高齢化がすすむ中、我が国では、ライフスタイルの多様化に伴い、人が生きていくうえで欠くことの出来ない食生活は大きく変化し、各年齢層別に多くの問題を抱えている。特に、21世紀をになう児童・生徒・学生達の食状況の課題は山積している。その背景には、個人の「性格」、ライフスタイルの多様化に伴う「食および生活の意識・行動」の変化、高度成長による物質的豊かさから生じた「生き甲斐・人生観・結婚観」などの変化があると考えられる。

それゆえ、本研究は、既述の「食と心の教育の研究」を大きなテーマに掲げ、現代日本人が抱える食環境の問題点を明確にして、「食」の意味を「頭の教育」だけでなく、「心の教育」を

* 鹿児島純心女子短期大学生生活学科生活学専攻養護コース (〒890-8525 鹿児島市唐湊4丁目22番地1号)

通して解決の糸口を見つけることを最終目的としているが、本学「短期大学研究紀要第32号、2002年発行、第33号2003年発行」で「アンケート調査にみる高校生の気質」「高校生の不満・悩みと性格との関連」「現在の目標と性格との関連」を報告した。これに引き続き今回は、高校生の「人間教育受容意識と性格との関連」および「孤食に対する抵抗意識の有無と性格との関連」について検討したので結果を報告する。

Ⅱ. 対象および方法

(1) 質問紙の作成

項目の選定：

本研究は、科学研究費補助金「食と心の教育の研究」と称して、継続共同研究で実施中の『食と心の関連』についてのアンケート調査を10領域・144項目にわたって実施した。そのうち、Ⅰ. 現状についての領域中、質問項目⑧「あなたは、学校教育中で、『人間の生き方』を学んでいると思いますか、Ⅱ. 食に対する意識の領域中、質問項目⑩「あなたは、ひとりで食事することに抵抗がありますか」とⅨ. 性格の領域（質問項目①～⑳）にしばり両者の関連について解析を行った。

性格についての35項目は「クレッチマー性格テスト（滝沢清人「深層心理テスト」）からの項目を、さらに7タイプ（タイプA～G）に分類したものを使用した。

なお、他の領域については、共同研究者の花木秀子が報告する予定である。

(2) 調査対象

回答者の属性を表1に示す。鹿児島市にある、進学率100%の進学校2校の2年生616名、進学率17%で就職希望者が多い混合校の3校704名、性別でみると男子625名、女子695名、合計1,320名を対象に実施した。

表1 回答者の属性（男女高校生）

単位：人

項目 カテゴリー	進 学 校 n=616		就 職 校 n=704			合 計
	A校	B校	C校	D校	E校	
男 子	166	149	4	111	195	625
女 子	165	136	171	117	106	695
合 計	331	285	175	228	301	1320

(3) 調査期間 平成12年11月実施

(4) アンケートの配布・回収方法

事前に、それぞれの高校に電話による研究主旨説明および協力依頼をし、調査用紙を持参し、留置法および集合法による自記入方式でアンケート調査を実施した。記入終了後回収をお願いし、郵送による受領を行った。1,450枚配布し、回収率92.0%、1,320枚の有効標本で、有効数91.0%であった。

(5) 分析方法

結果の分析：

有効標本数1,320名を対象に、男子高校生・女子高校生に層別化した。なお、「人間教育受容意識と性格との関連」は表3に示すように、学校教育の中で『人間の生き方』を「学んでいる」と答えたものを「認識群 n = 256」、「いいえ」と答えたものを「無認識群 n = 391」の2群に分類して総数647名を基準変数とした(「どちらともいえない」と答えた n = 673は、今回割愛した)。

「孤食に対する抵抗意識の有無と性格との関連」は表4にあげたように、「ひとりで食事をすることに抵抗が「非常にある」と「少しある」と答えたものを「抵抗群」とし、「ほとんどない」と「全くない」と答えたものを「無抵抗群」とし2群に分類して基準変数とし、今回の解析領域であるⅨ。「性格」との関連を比較検討した。

性格については、各性格項目が「ピッタリ」と「まあまあ」と答えたものは「傾向有」とし、「どちらとも違う」と「違う」といい切っているものを「傾向無」とし、同じく2群に分けて基準変数とした。

データ入力には、統計ソフト「STATISTICA」・「EXCEL」・「SPSS」を用い、「人間教育の受容意識」・「孤食に対する抵抗意識の有無」と性格との独立性についてのピアソンの χ^2 検定を行い、カテゴリーに5未満のセルがあった場合は統計解析の検討項目から割愛した。基礎データの数値は、すべて小数第2位で四捨五入して表記し、 χ^2 検定の値は小数第3位まで表記し、それを★印に変換してあらわしている。結果数値(%)は、小数第2位で四捨五入したので、内訳の合計が100%に一致しないこともある。

Ⅲ. 結果と考察

今回使用した性格の③⑤項目、「クレッチマー性格テスト(滝沢清人「深層心理テスト」)を表2に示した。

(1)「人間教育の受容意識」(認識群と無認識群の2群別)と「性格」(傾向有と傾向無の2群)の関連結果を表3に、(2)「孤食に対する抵抗意識の有無」(抵抗群と無抵抗群の2群化)と「性格」(傾向有と傾向無の2群)の関連結果を表4にまとめた。表3と表4に関しては、性格の全項目掲載を省き、独立性検定の結果有意な関連がみられた項目だけをまとめた。表内の独立性の検定結果は、★印で表し★ $P < 0.05$ 、★★ $P < 0.01$ 、★★★ $P < 0.001$ で表記した(以下全て、これに従う)。

表2 クレッチマーの性格類型テスト

次の質問に対して、自分の事を考えて、
ピッタリと思うものに◎、まあまあと思うものに○を、
どちらとも言えないものに△、違うと思うものに×印を（ ）につけなさい。

- () 1. 世話好きで、頼まれると気軽に引き受ける。
- () 2. 人に従うのが嫌いで、自分を主張し実行する。
- () 3. 粘り強く、何かを始めると夢中になる。
- () 4. 自分のすることに自信がない。
- () 5. おおぜいの人がいる所にいるのを好まない。
- () 6. 思ったことでも、なかなか実行出来ない。
- () 7. 派手好きで流行に敏感である。
- () 8. あけっぴろげで陽気である。
- () 9. 何でも大きなことが好き。
- () 10. 几帳面できちんとしていないと気がすまない。
- () 11. 身体の具合に敏感で、健康状態が気になる。
- () 12. 真面目であり冗談など言ったりしない。
- () 13. 小さなものや弱いものをかわいがる。
- () 14. 人におだてられると、その気になりやすい。
- () 15. とりこし苦労をしてふさぎ込みがちになる。
- () 16. 楽なことより困難なことや冒険を好む。
- () 17. 何の原因もなく、急に不機嫌になることがある。
- () 18. 気になったことが頭から離れず、苦しむ。
- () 19. 人と変わった偏屈なところがある。
- () 20. 依頼心が強い。
- () 21. 何かに憧れたり、空想にふけったりする。
- () 22. 過去にとらわれず、現実に従った考え方をする。
- () 23. 人に頼らず何でも自分で決めてしまう。
- () 24. がまん強いが、たえられないで爆発する。
- () 25. ちょっとしたことにも、ひどく敏感である。
- () 26. 現実よりも理想を重んじる。
- () 27. 優柔不断のほうである。
- () 28. 自分の力以上のことを望むほうである。
- () 29. 自分のことを、平気で人に任せておける。
- () 30. 他人を自分のベースに巻き込む。
- () 31. 礼儀正しいが、堅苦しく窮屈なほうである。
- () 32. 人に気がねして、噂を気にする。
- () 33. 人のことを気にせず、思った通り実行する。
- () 34. 目上の者や権威のある者のいうままになる。
- () 35. 人がうらやましく、ねたましいと思うことがある

滝沢清人「深層心理テスト」より

表3 人間教育受容意識と性格との関連

項目・カテゴリー	総計 n=647				χ^2	男子 n=316				χ^2	女子 n=331				χ^2
	認識群 n=256		無認識群 n=391			認識群 n=115		無認識群 n=201			認識群 n=141		無認識群 n=190		
	度数	%	度数	%		度数	%	度数	%		度数	%	度数	%	
粘り強く、何かを始めると夢中になる。 Cタイプ(粘着性)															
傾向有	182	71.1	235	60.1	★★	85	73.9	125	62.2	★	97	68.8	110	57.9	
傾向無	74	28.9	156	39.9		30	26.1	76	37.8		44	31.2	80	42.1	
几帳面で、きちんとしていないと気がすまない。 同上															
傾向有	130	50.8	162	41.4	★	60	52.2	84	41.8		70	49.6	78	41.1	
傾向無	126	49.2	229	58.6		55	47.8	117	58.2		71	50.4	112	58.9	
何の原因もなく、急に不機嫌になることがある。 同上															
傾向有	93	36.3	195	49.9	★★★	35	30.4	89	44.3	★	58	41.1	106	55.8	
傾向無	163	63.7	196	50.1		80	69.6	112	55.7		83	58.9	84	44.2	
身体の具合に敏感で、健康状態が気になる。 Dタイプ(過敏性)															
傾向有	137	53.5	157	40.2	★★★	66	57.4	86	42.8	★	71	50.4	71	37.4	
傾向無	119	46.5	234	59.8		49	42.6	115	57.2		70	49.6	119	62.6	
人と変わった偏屈なところがある。 Eタイプ(内閉性)															
傾向有	109	42.6	235	60.1	★★★	47	40.9	125	62.2	★★★	62	44.0	110	57.9	
傾向無	147	57.4	156	39.9		68	59.1	76	37.8		79	56.6	80	42.1	
小さなものや弱いものをかわいがる。 Fタイプ(受動性)															
傾向有	154	60.2	195	49.9	★	70	60.9	96	47.8	★	84	59.6	99	52.1	
傾向無	102	39.8	196	50.1		45	39.1	105	52.2		57	40.4	91	47.9	
目上の者や権威のある者のいうままになる。 同上															
傾向有	89	34.8	105	26.9	★	49	42.6	58	28.9	★	40	28.4	47	24.7	
傾向無	167	65.2	286	73.1		66	57.1	143	71.1		101	71.6	143	75.3	

P<0.05★, P<0.01★★, P<0.001★★★

表4 孤食に対する抵抗意識の有無と性格との関連

項目・カテゴリー	総計 n=1320				χ^2	男子 n=625				χ^2	女子 n=695				χ^2
	抵抗群 n=521		無抵抗群 n=799			抵抗群 n=202		無抵抗群 n=423			抵抗群 n=319		無抵抗群 n=376		
	度数	%	度数	%		度数	%	度数	%		度数	%	度数	%	
世話好きで、頼まれると引き受ける。 Aタイプ (同調性)															
傾向有	366	70.2	485	60.7	***	140	69.3	238	56.3	**	226	70.8	247	65.7	
傾向無	155	29.8	314	39.3		62	30.7	185	43.7		93	29.2	129	34.3	
過去にとらわれず、現実に従った考え方をする。 同上															
傾向有	181	34.7	328	41.1	*	77	38.1	188	44.4		104	32.6	140	37.2	
傾向無	340	65.3	471	58.9		125	61.9	235	55.6		215	67.4	236	62.8	
他人を自分のペースに巻き込む。 Bタイプ (能動性)															
傾向有	171	32.8	272	34.0		83	41.1	140	33.1		88	27.6	132	35.1	
傾向無	350	67.2	527	66.0		119	58.9	283	66.9		231	72.4	244	64.9	
粘り強く、何かを始めると夢中になる。 Cタイプ (粘着性)															
傾向有	363	69.7	494	61.8	**	147	72.8	277	65.5		216	67.7	217	57.2	
傾向無	158	30.3	305	38.2		55	27.2	146	34.5		103	32.3	159	42.3	
几帳面で、きちんとしていないと気がすまない。 同上															
傾向有	265	50.9	338	42.3	**	113	55.9	190	44.9	*	152	47.6	148	39.4	
傾向無	256	49.1	461	57.3		89	44.1	233	55.1		167	52.4	228	60.6	
礼儀正しいが、堅苦しく窮屈な方である。 同上															
傾向有	115	22.1	145	18.1		60	29.7	92	21.7	*	55	17.2	53	14.1	
傾向無	406	77.9	654	81.9		142	70.3	331	78.3		264	82.8	323	85.9	
身体の具合に敏感で、健康状態が気になる。 Dタイプ (過敏性)															
傾向有	271	52.0	312	39.0	*	116	57.4	179	42.3	***	155	48.6	133	35.4	
傾向無	250	48.0	487	61.0		86	42.6	244	57.7		164	51.4	243	64.6	
ちょっとしたことにも、ひどく敏感である。 同上															
傾向有	303	58.2	410	51.3	*	111	55.6	193	45.6	*	192	60.2	217	57.7	
傾向無	218	41.8	389	48.7		91	45.0	230	54.4		127	39.8	159	42.3	
人に気がねして、うわさを気にする。 同上															
傾向有	363	69.7	498	62.3	**	137	67.8	255	60.3		226	70.8	243	64.6	
傾向無	158	30.3	301	37.7		65	32.2	168	39.7		93	29.2	133	35.4	
人のことを気にせず、思った通り実行する。 Eタイプ (内閉性)															
傾向有	128	24.6	242	30.3	*	50	24.8	149	35.2	*	78	24.5	93	24.7	
傾向無	393	75.4	557	69.7		152	75.2	274	64.8		241	75.5	283	75.3	
小さなものや弱いものをかわいがる。 Fタイプ (受動性)															
傾向有	307	58.9	398	49.8	**	127	62.9	194	45.9	***	180	56.4	204	54.3	
傾向無	214	41.1	401	50.2		75	37.1	229	54.1		139	43.6	172	45.7	
目上の者や権威のある者のいうままになる。 同上															
傾向有	178	34.2	222	27.8	*	79	39.1	123	29.1	*	99	31.0	99	26.3	
傾向無	343	65.8	577	72.2		123	60.9	300	70.9		220	69.0	277	73.7	
人におだてられると、その気になりやすい。 Gタイプ (自己顕示性)															
傾向有	365	70.1	464	58.1	***	137	67.8	234	55.3	**	228	71.5	230	61.2	
傾向無	156	29.9	335	41.9		65	32.2	189	44.7		91	28.5	146	38.8	
人がうらやましく、ねたましいと思うことがある。 同上															
傾向有	343	65.8	469	58.7	**	134	66.3	230	54.4	**	209	65.5	239	63.6	
傾向無	178	34.2	330	41.3		68	33.7	193	45.6		110	34.5	137	36.4	

P<0.05★, P<0.01★★, P<0.001***

(1) 「人間教育受容意識と性格」との関連検討

Ⅸ. 「性格」領域35項目のうち、「人間教育の受容意識」と有意な関連が認められたのは、表3の示す通り7項目のみである。

『粘り強く、何か始めると夢中になる』では、総数と男子に有意な関連性が認められ、いずれにおいても「認識群」「無認識群」ともに、「傾向有」が多く、60.1%~73.9%を示し、総数では11.0%、男子では11.7%と「認識群」が高い傾向にあった。

『几帳面で、きちんとしていないと気がすまない』では、総数のみに有意な関連が認められる。「認識群」では、「傾向有」が僅かに多いが、ほとんど差はみられない。「無認識群」では、「傾向無」が多く、9.4%高い。

『何の原因もなく、急に不機嫌になることがある』では、総数と男子および女子で有意な関連が認められる。総数と男子では、「認識群」「無認識群」ともに、「傾向無」が多く、50.1%~69.6%を示し、総数では13.6%、男子では13.9%と「認識群」が高い傾向にあった。女子では、「認識群」に「傾向無」の傾向が多く14.7%高い、「無認識群」の方は「傾向有」の傾向が多く、同じく14.7%高かった。

『身体の具合に敏感で、健康状態が気になる』では、前項同様、総数と男子および女子で有意な関連が認められる。ともに「認識群」では「傾向有」が多く、50.4%~57.4%を示し、総数では13.3%、男子では14.6%、女子では13.0%高い傾向にあった。

『人と変わった偏屈なところがある』でも、総数と男子および女子で有意な関連がみられる。総数と男子および女子いずれでも「無認識群」で「傾向有」が多く、57.9%~62.2%を示し、総数で17.5%、男子で21.3%、女子で13.9%高い傾向にある。

『小さいものや弱いものをかわいがる』では、総数と男子に有意な関連がみられる。ともに「認識群」では60.2%、60.9%を示して「傾向有」が多く、総数で10.3%、男子で13.1%高い傾向にある。

『目上の者や権威のある者のいうままになる』では、総数と男子に有意な関連が認められる。ともに「傾向無」が多く、総数では7.9%、男子では14.0%高いといえる。(P値は、表3を参照)

(2) 「孤食に対する抵抗意識の有無と性格」との関連検討

Ⅸ. 「性格」領域35項目のうち、「孤食に対する抵抗意識の有無」と有意な関連が認められたのは、表4の示す通り14項目である。

『世話好きで、頼まれると気楽に引き受ける』では、総数と男子に有意な関連性が認められ、いずれにおいても「抵抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向有」が多く、56.3%~70.2%を示し、総数では9.5%、男子では13.0%と「抵抗群」が高い傾向にある。

『過去にとらわれず、現実にそった考え方をする』では、総数のみに有意な関連性が認められ、「抵抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向無」が多く、抵抗群が6.4%高い。

『他人を自分のペースに巻き込む』では、女子のみに有意な関連性が認められ、「抵抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向無」が多く、抵抗群の方が7.5%高い傾向にある。

『粘り強く、何かを始めると夢中になる』では、総数と女子に有意な関連性が認められ、「抵

抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向有」が多く、57.2%~69.7%を示し、総数では7.9%、女子では10.5%と「抵抗群」の方が高い。

『几帳面で、きちんとしていないと気がすまない』では、総数と男子および女子で有意な関連性が認められる。総数と男子では、いずれも「抵抗群」で「傾向有」が多く、それぞれ8.6%、11.0%と抵抗群が高い。「無抵抗群」で「傾向無」が多く、8.2%、11.0%「無抵抗群」が高い。女子では、「抵抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向無」が多く、「無抵抗群」が8.2%高い傾向にある。

『礼儀正しいが、堅苦しく窮屈な方である』では、男子のみに有意な関連性が認められ、「抵抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向無」が多く、70.3%~81.9%を示し、8.0%「無抵抗群」が高い傾向にある。

『身体の具合に敏感で、健康状態が気になる』では、総数と男子および女子全ての層に有意な関連性が認められる。総数と男子いずれも「抵抗群」に「傾向有」が多く、13.0%、15.1%「抵抗群」が高い傾向にある。「無抵抗群」は「傾向無」が多く、13.0%、15.1%「無抵抗群」が高い傾向にある。女子では、両群ともに「傾向無」が多く、「無抵抗群」が13.2%高い傾向にある。

『ちょっとしたことにも、ひどく敏感である』では、総数と男子に有意な関連性が認められ、総数では両群とも「傾向有」が多く、「抵抗群」が6.9%高い。男子では「抵抗群」では「傾向有」が多く、10%高い。「無抵抗群」では「傾向無」が多く9.4%高い傾向にある。

『人に気がねして、うわさを気にする』では、総数のみに有意な関連性が認められ、「抵抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向有」が多く、「抵抗群」が7.4%高い傾向にある。

『人のことを気にせず、思った通り実行する』では、総数と男子に有意な関連性が認められる。双方の「抵抗群」「無抵抗群」で、「傾向有」が多く、64.8%~75.4%を示し、総数では5.7%、男子では10.4%「抵抗群」が高い傾向にある。

『小さいものや弱いものをかわいがる』でも、総数と男子に有意な関連性が認められ、いずれにおいても「抵抗群」は「傾向有」が多く、それぞれ9.1%、17.0%と「抵抗群」が高い。

『目上の者や権威のある者のいうままになる』では、総数と男子に有意な関連性が認められ、いずれにおいても「抵抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向無」が多く、60.9%~72.2%を示し、総数では6.4%、男子では10.0%と「無抵抗群」が高い傾向にある。

『人におだてられると、その気になりやすい』では、総数と男子および女子全てに有意な関連性が認められ、全ての層において「抵抗群」「無抵抗群」ともに、「傾向有」が多く、55.3%~70.5%を占め、総数では12.0%、男子では12.5%、女子は10.3%「抵抗群」が高い傾向にある。

最後に『人がうらやましく、ねたましいと思うことがある』では、総数と男子に有意な関連性が認められ、いずれにおいても両群ともに、「傾向有」が多く、54.4%~66.3%を示し、それぞれ7.1%、11.9%と「抵抗群」が高い。(P値は、表3を参照)

表5 4領域と関連が認められた性格項目

項目・カテゴリー		現在の 不満 悩み	現在の 目標	人間教育 受容	孤食抵抗 意識
A 同調性 性格	① 世話好きで、頼まれると気楽に引き受ける。				★ □♂
	② あげっぴろげで陽気である。	★ □♂			
	③ とりこし苦労をして、ふさぎこみがちになる。	★ □♂	★ □		
	④ 過去にとらわれず、現実にそった考え方をする。	★ □♂♀			★ □
	⑤ 自分のことを、平気で人にまかせておける。	★ ♂	★ □♂		
B 能動性 性格	① 人に従うのが嫌いで、自分を主張し実行する。		★ ♀		
	② 何でも大きなことが好き。				
	③ 楽なことより、困難なことや冒険を好む。		★ □♂		
	④ 人に頼らず、何でも自分で決めてしまう。				
	⑤ 他人を自分のペースに巻き込む。		★ □♂		★ ♀
C 粘着性 性格	① 粘り強く、何かを始めると夢中になる。		★ □♂♀	★ □♂	★ □♀
	② 几帳面できちんとしていないと気がすまない。			★ □	★ □♂♀
	③ 何の原因もなく、急に不機嫌になることがある。	★ □♂♀		★ □♂♀	
	④ がまん強いが、たえられないで爆発する。	★ □♂	★ ♂		
	⑤ 礼儀正しいが、型苦しく窮屈な方である。		★ □		★ ♂
D 過敏性 性格	① 自分のすることに自信がない。	★ □♂♀	★ □♀		
	② 身体の具合に敏感で、健康状態が気になる。	★ □♂		★ □♂♀	★ □♂♀
	③ 気になったことが頭から離れず、苦しむ。	★ □♀			
	④ ちょっとしたことにも、ひどく敏感である。	★ □♂♀			★ □♂
	⑤ 人にきがねして、うわさを気にする。	★ □♂♀	★ □		★ □
E 内閉性 性格	① おおぜいの人がいる所にいるのを好まない。	★ □			
	② 真面目であり冗談など言ったりしない。				
	③ 人と変わった偏屈なところがある。	★ □♂	★ □♂♀	★ □♂♀	
	④ 現実よりも理想を重んじる。	★ □♀	★ □		
	⑤ 人のことを気にせず、思った通り実行する。				★ □♂
F 受動性 性格	① 思ったことでも、なかなか実行できない。	★ □			
	② 小さなものや弱いものをかわいがる。			★ □♂	★ □♂
	③ 依頼心が強い。	★ □♂			
	④ 優柔不断である。	★ □♂♀			
	⑤ 目上の者や権威のある者の言うままになる。		★ □♂♀	★ □♂	★ □
G 自己顕示 性格	① 派手好きで、流行に敏感である。	★ ♂	★ □♂		
	② 人におだてられると、その気になりやすい。	★ □♂			★ □♂♀
	③ 何かに憧れたり、空想にふけったりする。	★ □♂			
	④ 自分の力以上のことを望む方である。	★ ♀			
	⑤ 人がうらやましく、ねたましいと思うことがある。	★ □♂♀			★ □♂

★印は、有意な関連が認められた項目で、□印は総数に、♂印は男子、♀印は女子に認められたもの。

(3) まとめ

今回実施した「人間教育の受容意識」および「孤食に対する抵抗意識の有無」と「性格」との関連を検討した結果、有意な関連が認められたのは前者が35項目中7項目、後者が14項目であった。また、両者共通に有意な関連がみられたのは、

- ①粘り強く、何かを始めると夢中になる。(粘着性性格)
- ②几帳面で、きちんとしていないと気がすまない。(同上)
- ③身体の具合に敏感で、健康状態が気になる。(過敏性性格)
- ④小さいものや弱いものをかわいがる。(受動性性格)
- ⑤目上の者や権威のある者のいうままになる。(同上)の5項目であった。

また、男子・女子の層別比較をみてみると、4領域全てにおいて女子より男子に有意な関連が多く認められるのは注目すべき結果である。

さて、先に第3報・第4報で報告したように、高校生が抱えている「現在の不満・悩み」の原因と(精神的要因群と社会的要因群の2群に分類)「性格」との関連を検討した結果、有意な関連がみられたのは、35項目中22項目であった。その中、以下の14項目が「不満・悩み」と「性格」に特有な項目であった。

- ①あけっぴろげで陽気である。(同調性性格)
- ②過去にとらわれず、現実にそった考え方をする。(同上)
- ③何の原因もなく、急に不機嫌になることがある。(粘着性性格)
- ④身体の具合に敏感で、健康状態が気になる。(過敏性性格)
- ⑤気になったことが頭から離れず苦しむ。(同上)
- ⑥ちょっとしたことにも、ひどく敏感である。(同上)
- ⑦おおぜいの人がいる所にいるのを好まない。(内閉性性格)
- ⑧思ったことでも、なかなか実行できない。(受動性性格)
- ⑨依頼心が強い。(同上)
- ⑩優柔不断である。(同上)
- ⑪人におだてられると、その気になりやすい。(自己顕示性性格)
- ⑫何かに憧れたり、空想にふけったりする。(同上)
- ⑬自分の力以上のことを望むほうである。(同上)
- ⑭人が羨ましく、妬ましいと思うことがある。(同上)

一方、「現在の目標」と(精神的欲求群と社会的欲求群の2群に分類)「性格」との関連を検討した結果、有意な関連が認められたのは35項目中、以下の14項目であった。その中次の6項目が「目標と性格」に特有の項目である。

- ①人に従うのが嫌いで、自分を主張し実行する。(能動性性格)
- ②楽なことより、困難なことや冒険を好む。(同上)
- ③他人を自分のペースに巻き込む。(同上)
- ④粘り強く、何かを始めると夢中になる。(粘着性性格)
- ⑤礼儀正しいが、堅苦しく窮屈な方である。(同上)
- ⑥目上の者や権威のある者の言うままになる。(受動性性格)

そして、次の8項目は「不満・悩みと性格」、「現在の目標と性格」に共通して有意な関連が認められた項目である。

- ①とりこし苦勞をして、ふさぎこみがちになる。(同調性性格)
- ②自分のことを、平気で人にまかせておける。(同上)
- ③がまん強いが、たえられないで爆発する。(粘着性性格)
- ④自分のすることに自信がない。(過敏性性格)
- ⑤人に気がねして、うわさを気にする。(同上)
- ⑥人と変わった偏屈などところがある。(内閉性性格)
- ⑦現実よりも理想を重んじる。(同上)
- ⑧派手好きで、流行に敏感である。(自己顕示性性格)

以上の結果(表5参照)から明確なように性格をタイプ別にみると、「現在の不満・悩み」では、有意な関連が多く認められた。なかでも、Aタイプ(同調性性格)・Dタイプ(過敏性性格)・Gタイプ(自己顕示性性格)が顕著で、続いてEタイプ(内閉性性格)・Fタイプ(受動性性格)と関連が高いという興味深い結果がみられた。つまり、若年層の「不満・悩み」が、人と協調し、環境を素直に受け入れていく同調性性格、自分を取り巻く状況に対して、とても敏感に反応する過敏性性格、自分を目立たせようと、他人とは違ったところをみせようとする自己顕示性格に、高い関連が認められることは興味深い。

これに対して、若年層の「現在の目標」でも有意な関連がみられ、Bタイプ(能動性性格)・Cタイプ(粘着性性格)と関連が高い。つまり、他に対しては自分のほうから積極的に働きかけ、行動しようとする能動性性格、自分のおかれている状況を受け入れ、それに固執しようとする粘着性性格と関連がみられる。

今回の「人間教育受容意識と性格」との関連では、Cタイプ(粘着性性格)が、「孤食に対する抵抗意識の有無と性格」との関連では、同じくCタイプ(粘着性性格)、他にDタイプ(過敏性性格)と関連が認められるが、「人間教育受容意識と性格」は、他の領域よりは性格との関連は低いようである。

IV. おわりに

本研究は冒頭で既述した通り、「食と心の教育の関連～健康におよぼす食物栄養学的、心理学的、哲学的影響」のテーマで、「日本学術振興会科学研究費補助金」のもとに、平成11～14年度の4年間にわたり、食生活・心理学・哲学・統計学の分野と連携をはかり共同研究を行ってきたものの一部である。

若年層(高校生・短大生)と社会人との世代別の相違なども検討したく、短大生1,111名、高校生1,320名、社会人607名、総計3,038名を対象に330項目にわたってのアンケート調査を実施して分析・考察を試みてきた。何分、私達は初めての経験でもあり、実施する前に検討を重ねたつもりが、実際に施行してみると、

- (1)質問項目が多すぎた。
- (2)回答欄が曖昧だったり・迷いやすい表記をさけて的確な表現の工夫が必要であった。

(3)十分な検討を行う時間不足である…など、あげると限りがない位問題点に気がついた。

そのうえ、膨大なデータの分析は、まだまだ残っているわけで、今後もこのデータをもとに研究を続けていく予定である。

現在の若年層の食生活の改善は知識を与えるだけでは困難で、心のあり様・性格とも無縁ではないと思われる。若者達の間人としての生き方・食生活・性格がどう関わりを持ち、どのように指導・教育していけばよいのか、いまだ改善要因を探り始めたばかりであるが、社会人の解析も行い、年齢層や所属集団の違いを変数に、さらに研究を続け、教育指導に寄与していきたい。ものごとの原因は多様な要因が複雑に絡んでいるので、一筋縄ではいかないが、人間教育・食生活・性格の関連の研究から教育現場に貢献していく方法を探り続けたい。

引用・参考文献

1. 今井一枝他 性格と生活習慣の関連性 日本公衆衛生 Vol.37第8号.1990
2. 藤江泰他 食習慣と性格特性との関連 島根大学教紀要 Vol.37第2号.1989
3. 岩下美代子他 性格と食および生活行動の関連
鹿児島純心女子短期大学紀要 第25号.1995
4. 麻原雄他 本学女子学生意識調査報告
東横学園女子短期大学女性文化研究所紀要 No.6.1997
5. 神原文子 「脱青年期」の結婚観と家族観に関する一考察
愛知県立大学文学部論集 社会福祉学科編1995
6. 川平朝清 昭和女子大学英米文化学科2年生の結婚観
～「コミュニケーション入門3」の授業アンケート1994・1995より
昭和女子大学近代文化研究所「学苑」
7. 内外教育編 カリキュラムの「消化困難」3割も～東京大学の98年「学生生活実態調査」
時事通信社 1999.12.21
8. 宮原忍他 21世紀に向けての周産期医療～現代若者の結婚観
周産期医学 Vol.28第1号.1998
9. 岩下美代子他 食と心の教育の関連～アンケート調査にみる現代学生気質
鹿児島純心女子短期大学紀要 第31号.2001
10. 花木秀子他 食と心の教育の関連～女子短大生の食・生活・性格・疲労状況
鹿児島純心女子短期大学紀要 第31号.2001
11. 岩下美代子他 食と心の教育の関連～アンケート調査にみる高校生気質
鹿児島純心女子短期大学紀要 第32号.2002
12. 河野友信 心のストレス病 PHP 2000
13. 大沢 博 心理栄養学 ブレーン出版 1994
14. 健康・栄養情報研究会編 国民栄養の現状,平成10年国民栄養調査結果 2000
15. 岩下美代子他 食と心の教育の関連～高校生の不満・悩みと性格との関連
鹿児島純心女子短期大学紀要 第33号.2003
16. 岩下美代子 食と心の教育の関連～高校生の現在の目標と性格との関連
鹿児島純心女子短期大学紀要 第33号.2003

17. <http://www.seikatubunka.metro.tokyo.jp/index9.files/inv4/inv4.htm>
18. <http://osaka.cool.ne.jp/kohoken/lib/khk133a.htm>
19. <http://www.pref.toyama.jp/sections/1012/press/waka-annke1007.htm>
20. <http://www.rimedia.co.jp/enews/03a.html>
21. <http://www.sorifu.go.jp/survey/a-chuui.html>
22. <http://www.sorifu.go.jp/survey/y-chuui.html>